



2014.6.30 (月)

甲状腺の病気は患者数の少ない珍しい病気としてとらえられており、正しく理解されている方は少ないようだ。

また、アレルギー症状を抑える際に処方される「副腎皮質ホルモン剤(ステロイド剤)」という薬の名前は聞いたことがあっても、それにかかわる副腎という臓器については耳慣れないのではないのでしょうか。

このように意外と知らない・知られてない「甲状腺」と「副腎」という臓器は、ともに内分泌系の器官に分類される。体には「外分泌」と「内分泌」という2つの分泌のしくみがあり、外分泌は導管という管を通じて、汗や唾液、消化液(胃液)などの液体が外表面に分泌されることをいう。

一方、内分泌は導管を経由せずに、つくられた分泌物であるホルモンが血液中やリンパ管に直接分泌されることをいう。

② 恒常性を維持する「ホルモン」



私たち人間が健やかに生きていくためには、体の機能が常にバランスを保っていることが重要。たとえば、季節の変わり目で気温が大きく変化しても、健康であれば体温を一定の範囲に保つことができる。これは外部の環境の変化に体がバランスよく対応することで、体の健康を維持する(体温・血流量・血液成分などを正常な範囲に保つ)しくみがあるからだ。

このように一定のバランスを保ち、体の健康を維持している状態を「恒常性(ホメオスタシス)」という。そして、恒常性を維持するための体内物質が「ホルモン」だ。

ホルモンは、「刺激するもの」「目覚めさせるもの」という意味を持つギリシャ語の「Harmao(ホルモオ)」が語源となっている。その言葉通り、「体の中の働きを刺激して起こす」という役割を持ち、神経系や免疫系など、あらゆる体のしくみに深くかかわっている。

体内には、100種類以上のホルモンがあると言われ、必要な時期に必要な量が分泌され、決められた役割を果たしている。

◉ ホルモンを分泌する「内分泌腺」 ◉

ホルモンをつくり、分泌する器官を「内分泌腺」もしくは「内分泌器官」といい、それらをまとめて「内分泌系」という。

内分泌系の主な機能は、血液中に微量のホルモンを分泌し、神経系（神経により外部の情報伝達・処理）とともに体の組織や器官の働きを調整すること。

分泌された微量のホルモンは、血液やリンパを通して標的臓器（ホルモンなどの作用を受ける器官）まで遠く運ばれ、標的臓器であらかじめ決められた細胞（受容体のある細胞）に結合して体の機能や調整を行う。

-図 1：主な内分泌腺と主要ホルモン-

